

2025 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 19 日

1. 職名・氏名 准教授・加藤裕美

2. 学位 学位 博士、専門分野 地域研究、授与機関 京都大学、授与年 2011 年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 教養ゼミナール（野生動物と地域社会）（火 3）（1 単位） 1 年次配当	
② 内容・ねらい このゼミでは、狩猟、鳥獣害対策、ジビエの利用など、人間の生活環境の変化、自然環境の変化などと野生動物の関係について学ぶことをねらいとした。対象の調査方法、文献の検索方法、調査結果のまとめ方、レジュメやスライドを使った発表のしかたなど、大学生活に必要な、基本的な学習スキルの習得をおこなった。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 前半は、メールの書き方、文献検索のしかた、レジュメの作り方、レポートの書き方、ディベートのしかたなど、大学での学びを習得することに努めた。後半は、美浜町新庄地区でのフィールドワークを中心に狩猟、鳥獣害対策、ジビエの利用などについて、学生が鹿肉の有効活用についてアイデアを考えた。福井県猟友会など、ゲスト講師による授業を行うことにより、多様な視点から野生動物と人間を理解できるように工夫した。 ほぼ毎回グループワークやグループディスカッションを行うことにより、コミュニケーション能力や課題解決能力の涵養をおこなった。授業の最後に自己評価と相互評価を行うことにより、達成度を確認した。フィールドワークの様子が県民福井新聞に掲載された（2025 年 11 月 18 日県民福井新聞 5 面「猟師に県立大生新ビジネス提案―美浜で獣害対策授業」（授業紹介）。	【ゲストスピーカー 4 人】 【フィールドワーク 1 件】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 教養ゼミ（野生動物と地域社会）（火 4）（1 単位） 1 年次配当	
② 内容・ねらい このゼミでは、狩猟、鳥獣害対策、ジビエの利用など、人間の生活環境の変化、自然環境の変化などと野生動物の関係について学ぶことをねらいとした。対象の調査方法、文献の検索方法、調査結果のまとめ方、レジュメやスライドを使った発表のしかたなど、大学生活に必要な、基本的な学習スキルの習得をおこなった。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 前半は、メールの書き方、文献検索のしかた、レジュメの作り方、レポートの書き方、ディベートのしかたなど、大学での学びを習得することに努めた。後半は、美浜町新庄地区でのフィールドワークを中心に狩猟、鳥獣害対策、ジビエの利用などについて、学生が鹿肉の有効活用についてアイデアを考えた。福井県猟友会など、ゲスト講師による授業を行うことにより、多様な視点から野生動物と人間を理解できるように工夫した。 ほぼ毎回グループワークやグループディスカッションを行うことにより、コミュニケーション能力や課題解決能力の涵養をおこなった。授業の最後に自己評価と相互評価を行うことにより、達成度を確認した。フィールドワークの様子が県民福井新聞に掲載された（2025 年 11 月 18 日県民福井新聞 5 面「猟師に県立大生新ビジネス提案―美浜で獣害対策授業」（授業紹介）。	

【ゲストスピーカー 5人】 【フィールドワーク 1件】	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等	観光学（2単位） 1年次配当
② 内容・ねらい	観光現象を文化・社会・経済的など、様々な視点から分析する力を養う。福井や日本、世界の事例を学ぶことにより、観光の効果と課題について検討した。また、観光への地域社会の関わり方について学び、持続可能な観光のあり方を考えることをねらいとした。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	地域の観光事業者を招いたゲスト講義や、学生自身によるフィールドワークを重視した授業をおこなった。また講義授業のなかでも、グループディスカッション、調べ学習、ポスター発表など、アクティブラーニングを数多く取り入れた授業を実施した。ゲスト講義では、(株)JTB、ふくいエコ・グリーンツーリズム事務局、および森林楽校森んこ（おおい町）など、県内観光事業者から直接実情を学べる機会を設けた。 フィールドワークでは、永平寺、あわら温泉、東尋坊など県内20か所の観光地で学生がグループなどでフィールドワークを行った。調べた結果をグループでポスターにまとめポスター発表を行った。観光学の理論と事例の両方を学べる構成にし、事例では、福井県内、日本、世界とバランスよく学べるように留意した。統計データや新聞記事を用い、客観的に観光現象を理解できるよう試みた。 【ゲストスピーカー 4人】 【フィールドワーク 県内20か所】
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等	東南アジアの文化と社会（2単位） 1年次配当
② 内容・ねらい	東南アジア各国の現代的状況を自然、生業、国家、民族、開発、環境問題、食文化など様々な視点から読み解く。アジアの一員としての日本と東南アジアのつながりを理解し、東南アジアを学ぶことによって日本の文化と社会の特徴についても比較できるようになることをねらいとした。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	経済学部、看護福祉学部、海洋生物資源学部など、すべての学部の専門と関わるトピックを盛り込むことにより、学生の専門教育に生かせるように工夫をした。 日本貿易振興機構ジャカルタ事務所とオンラインでつなぎ、インドネシアからZoomゲスト講義をおこなった。また、福井県国際交流協会、国際協力機構北陸事務所、JICA 青年海外協力隊OB、柴崎定置網組合、太田木材株式会社など、東南アジアとかかわりのある多彩なゲスト講師を招いたゲスト講義を行った。グループディスカッションの時間を取り、学生が積極的に問題意識を持てるよう工夫した。また、毎回の小テストで理解度の確認を行った。 【ゲストスピーカー6人】
(2)その他の教育活動	

4. 研究業績

(1)研究業績の公表
① 著書 加藤裕美、池谷和信 2026「ボルネオ狩猟採集民の社会的適応——工芸品・婚資・社会集団」 池谷和信、齋藤玲子編『環境適応のホモ・サピエンス史—アジア狩猟採集民からの視点』東京大学出版会：東京 Pp.333-336. 2026年3月30日 【1本】
② 学術論文（査読あり）
③ その他論文（査読なし）
④ 学会発表等 加藤裕美 2026年3月19日「マレーシア・ボルネオ島のシハンにおける移動・統治と複合的民族関係」東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題研究会『空間統治と民族関係の人類学—東南アジアを中心として—』2025年度第2回研究会。東京外国語大学（オンライン）。 【1件】
⑤ その他の公表実績 2025年11月20日（月）県民福井新聞5面「猟師に県立大生新ビジネス提案—美浜で獣害対策授業」（授業紹介） 【1本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
【学外】 住友財団環境研究助成「熱帯アジアにおけるネイチャーポジティブ施策の森林生態系および地域社会への影響評価」（研究分担者）2025年度-2027年度 代表者：竹内やよい. 科学研究費補助金基盤研究(C)「東南アジアの熱帯雨林と地域社会の持続可能性に関する研究」（研究代表者）2024年度-2027年度. 科学研究費補助金基盤研究(A)「大型動物と森林空洞化の実態解明と将来予測」（研究分担者）2024年度-2027年度 代表者：松田一希 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究「空間統治と民族関係の人類学—東南アジアを中心として—」（共同研究員）2023年4月-2026年3月. 代表：河合文 国立民族学博物館共同研究「アジアの狩猟採集民の移動と生業 ——多様な環境適応の人類史」（共同研究員）2022年10月-2026年3月. 代表：池谷和信 科学研究費補助金若手研究「マレーシアにおける定住した狩猟採集民が現代的な社会問題を克服するための実証的研究」（研究代表者）2019年度-2027年度
(3)特許等取得
(4)学会活動等
日本文化人類学会 会員 東南アジア学会 会員 日本マレーシア学会 会員 International Society of Ethnobiology 会員 International Society for Hunter Gatherer Research 会員

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・地域政策学部開設準備委員会（2023 年 4 月～現在）
(3)学内行事への参加
一般教育後期オリエンテーション・履修登録相談会（9 月 24 日）
(4)その他、自発的活動など